

快適カーライフ

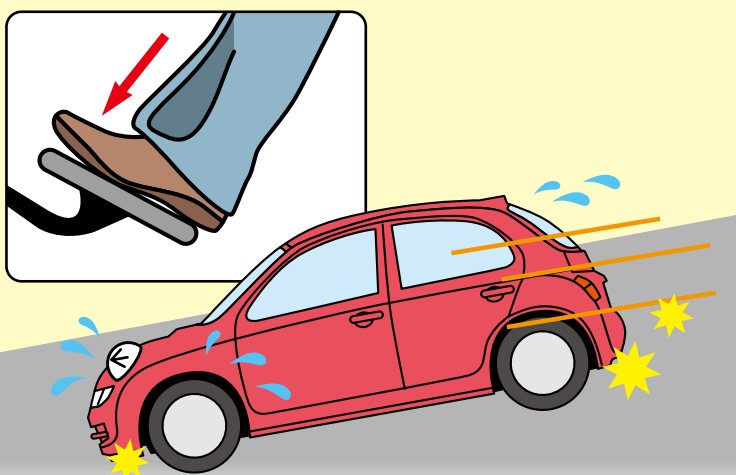
安全運転の

ポイント



制動時における不具合現象!!

長い下り坂でフット・ブレーキを使いすぎると、次の2つの現象が発生し、ブレーキの効きが低下し、事故が起きやすくなります。



フェード現象

フェードとは、次第に衰えるという意味から、フット・ブレーキを多用すると、乗車人数によりブレーキに負荷がかかり、ブレーキ・ライニングが加熱し、摩擦力が低下してブレーキの効が悪くなり、最悪の場合はブレーキが効かなくなる現象をいいます。

※シフトダウンによるエンジン・ブレーキの活用と点検整備の実施

ベーパー・ロック現象

ベーパー・ロックとは、過酷なブレーキングによりブレーキ・ホースやブレーキ・パイプ内のブレーキ液に気泡が発生し、ブレーキ・ペダルを踏み込んでもブレーキに正常な圧力（油圧）が加わらずブレーキが効かなくなる現象をいいます。

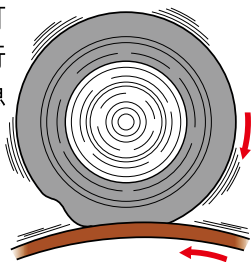
※シフトダウンによるエンジン・ブレーキの活用と適正なブレーキ液の使用

タイヤに起こる異常現象!!

スタンディング・ウェーブ

タイヤの空気圧が低いままで高速走行すると、タイヤに波打ち現象が発生し、そのまま走行を続けるとタイヤが変形し、急に破壊するので危険です。

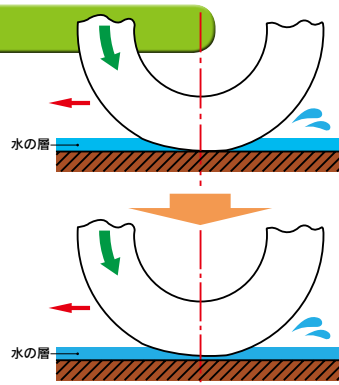
※タイヤの空気圧のチェックが重要!



ハイドロプレーニング

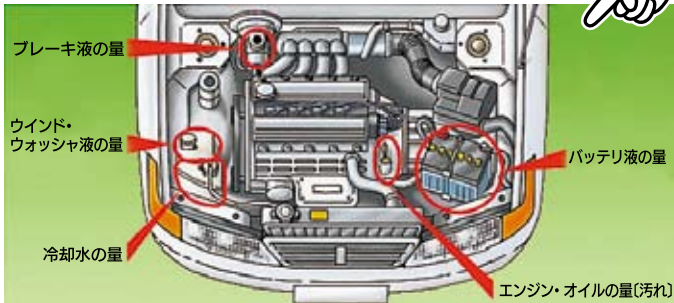
水がたまっている道路を高速で走行すると、水上を滑走する状態になりハンドルやブレーキが効かなくなる現象です。

※安全速度、タイヤの溝のチェック、タイヤの空気圧のチェックが重要!



お出かけ前に 要チェック!!

エンジンルームをのぞいてここを点検



①ウインド・ウォッシャ液の量の点検

不足時は専用液を補充しましょう。

②ブレーキ液の量の点検

液量が規定の範囲(MAXとMINの間)にあるか、点検しましょう。

③バッテリー液の量の点検

車両を揺らすなどして液量が規定の範囲(UPPERとLOWERの間)にあるか、点検しましょう。

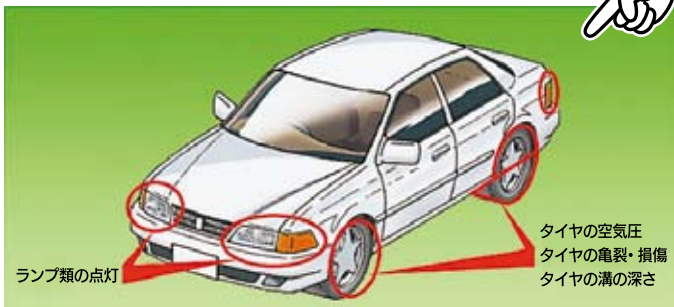
④冷却水の量の点検

ラジエータ・リザーバ・タンク内の冷却水の量が規定の範囲(FULLとLOWの間)にあるか、点検しましょう。

⑤エンジン・オイルの量の点検

オイル・レベル・ゲージにより示された範囲にあるか、点検しましょう。

車のまわりをまわってここを点検



⑥タイヤの空気圧の点検

見た目です不足を感じたら、整備工場、スタンドで空気を充填しましょう。

⑦タイヤの亀裂、損傷及び異状な摩耗の点検

タイヤの全周にわたり亀裂、損傷、異物の刺さり、片側や一部だけの異常な摩耗がないか点検しましょう。

⑧タイヤの溝の深さの点検

スリップ・サインが出ていないか点検しましょう。

⑨ランプ類の点灯、点滅及びレンズの汚れ、損傷の点検

エンジン・スイッチをONにして、各ランプ類の点灯具合、点滅速度の不良、レンズなどに汚れ、損傷がないか点検しましょう。

運転席に座ってここを点検



⑩ブレーキ・ペダルの踏みしろ及びブレーキの効きの点検

ブレーキ・ペダルをいっぱい踏み込んで、床板とのすき間や踏みこたえが適当であるか点検しましょう。

⑪パーキング・ブレーキ・レバー(ペダル)の引きしろ(踏みしろ)の点検

パーキング・ブレーキ・レバーをいっぱい引いた時、引きしろが多すぎたり、少なすぎたりしないか、ペダル式は、ペダルの踏みしろで点検しましょう。

⑫ウインド・ウォッシャの噴射状態の点検

噴射の向き及び高さが適当か点検しましょう。

⑬ワイパの拭き取りの状態の点検

ワイパを作動させ、低速、高速の各作動、拭き取りがきれいか点検しましょう。

⑭エンジンのかかり具合及び異音の点検

エンジンが速やかに始動し、スムーズに回転するか、始動時、アイドリング状態で、異音がないか点検しましょう。



各点検項目に、異常を感じたら「てんけんくん」マークの整備工場へ

MEMO